山梨県立ろう学校第２回学校運営協議会　協議結果等について

日時：令和６年１１月２５日（月）　１４：００～１６：００
場所：山梨県立ろう学校　文化交流会館　交流ホール

＜次第＞
１　開会の言葉
２　会長あいさつ
３　学校長あいさつ
４　出席者紹介（自己紹介）
５　議事　＜議長：会長＞
（１）令和６年度山梨県立ろう学校「学校に関するアンケート」
　　及び学校中間評価について（教頭）
（２）次年度以降の本校の課題と取組
　　及び学校運営協議会委員の選出について（教頭）
（３）その他
６　報告
（１）第２回いじめ実態アンケート調査について（生徒指導主事）
（２）その他
７　連絡事項
（１）次回の予定　２月２６日（水）午前　第３回　学校運営協議会
（２）その他
８　閉会の言葉

※ 会に先立ち、希望者のみ学校見学を行った。

＜議事＞
（１）令和６年度山梨県立ろう学校「学校に関するアンケート」及び学校中間評価について、１回目のアンケート結果・学校評価実施報告書の報告と、後期に向けての学校の取り組み、２回目のアンケート内容について、学校より説明。
⇒　委員より
・項目が分かりやすく整理された。アンケートの語尾がやさしくなりよい。わからないという回答項目がなくなってよい。「学校は～」など主語が入る

ことで、誰の評価をするかがはっきりしてよい。
→学校の運営目標に沿ったものにし、アンケート項目数を減らした。
・保護者向けアンケートの１６．外部専門家等の項目を載せたのがよい。どのくらいの頻度か、誰が対象なのか等、保護者の意識を高められてよい。
・教職員の１・２（低評価項目）を回答した教職員の把握が大切。バックアップが必要。年度末の評価で改善されることが望まれる。
→今後、このような回答がなくしていけるようにしていきたい。教員間の温度差をなくせるようにしていきたい。

（２） 今年度のこれまでの取り組みとして、７月に、山梨県立文学館を会場として学校運営協議会に関する全国フォーラムが開催され、本校とＣＳ副会長様との共同で発表を行ったことを紹介。
また、委員の皆様へのアンケートにていただいた御意見を全体で確認。「地域とともにある学校運営」「子供たちのために、広がり、深まる学び」「学校のもつ課題」「施設設備人材等の活用」などの、本校の課題と次年度以降の取組について、議論を交わした。
⇒　委員より
・ＰＴＡ手話講習会を地域に広めていくのはどうか。
・地域の回覧板の活用はどうか。有価物の回収、学校の紹介。細かい情報ではなく大きく魅力的なものを。通級だより、進路だよりのインタビュー記事等は、校外の人が読んでも生活に直結したり関心をもって読めたりする。
・ろう学校は、大野地区に唯一ある学校である。大野地区の防災や文化の中心になれるとよい。
→大野地区の防災訓練は休日。今年は管理職が一緒に参加する。また、本校が取り組んでいるフードドライブでは、大野地区の方も物品提供をしてくださっている。手話サークルとの交流やその際には本校高等部生徒が焙煎したコーヒーの販売等も行っている。本校を理解していただく方を増やしていく。
・フォーラムに参加させていただいた。ろう学校の価値を再認識できた。今後、ろう学校が地域とどのように関わってもらえるのか。どのように関わっていくのかを考えていく必要がある。ろう学校に幼稚部があることを知らない地域の方もいる。　ろう学校の資源も併せ、啓発が必要。
→大野地区のグラウンドゴルフは盛んに行われているのか。体育の授業等で交流できるとよい。
→地域でも、活動の中心になっていただける人がいない。地域も人材発掘中である。

・聴覚障害と他の障害を併せ持つ在籍児が増えてきている。人数が少ないと話し合い活動が難しい。

→聾教育を大切にすることも必要であるが、外部に開いていくことが必要。芸術文化祭では、手話歌の発表をステージ上で行った。将来社会に出たときに、地域の方と生きていけることを視点にしていく必要がある。

また、施設が古い。今年度は校内道路の雨水が溜まらないようにした。来年度は温便座を数台設置する。

・子供たちはゆくゆく地域で暮らす必要があるが、地域の中に溶け込んでいけるか不安がある。在学している生徒の地域で、中心に活動されている方と交流するのはどうか。例えば囲碁、フォークダンス、軽スポーツなど。

・本校の子供たちも含め、聴覚に障害がある子供たちとの交流があるとよい。その際、保護者同士の交流もできる。

→通級の子供たちのみの交流はある。要望が多くあれば本校の生徒も交流できる場を設定することについては検討したい。

・他の障害をもった子供たちと交流することがあれば、いろいろな考え方を知る機会となる。

・山梨大学の学園祭で、コーヒー販売をしてみてはどうか。今までにも障害をもった方たちの販売を行ったことがある。手話講習会に関わっている学生もいる。協力できることはある。

⇒教頭より

・現在委員に入っている教員を事務局にし、外部の方の委員を増やすのはどうか。地域とつながりが生まれるような人材を増やしていくことができるか考えていきたい。

→よいのではないか。

→２月の第３回委員会にて提案をさせていただく。

（３）その他　→　特になし

＜報告＞

（１）第２回いじめ実態アンケート調査について、生徒指導主事より報告。

＜連絡事項＞

（１）次回の予定　２月２６日（水）　第３回学校運営協議会

・午前中の実施を予定したい。給食試食ができればと考えている。